

<福島県知事賞優秀賞>

税との関係

田村市立常葉中学校

3年 さくま ちひろ
佐久間 千尋

今回、税の作文を書くにあたり、私は自分の知っていることで税金と関係のありそうなものを思い浮かべてみました。

例えば、年貢です。江戸時代では、日本の農民は年貢を納めていました。

それは過酷なものです。五公五民、つまり5割が幕府にとられ、残りの5割が自分の手元に残ります。しかし、それはまだいいほうで、中には七公三民という、自分の稼ぎの7割が持っていかれてしまうという地方もあったそうです。

これが税金だったらと考えると、ぞっとしてしまいます。

もしも、自分が働いて1万円の収入を得てその内の7千円が税金として持っていかれてしまったら、私はとても耐えることができません。

しかも、年貢は自分に返ってくることはありません。払った年貢は全て幕府が自分とは関係ないことに使ってしまうのです。

テレビの時代劇で見る悪代官の手に自分の税金が渡るのだとしたら、私は税金を払うことをためらうかもしれません。何に使われているかがわからないからです。今と昔の違いは、税金の使い道がはっきりとしている点です。私たちの払う税金は、図書館や道路、そして私たちが学ぶ学校などをつくるために使われています。

しかも、かつての七公三民という重税ではなく、今の税制はよく考えられた、納得のできるものです。

税金は年貢と違って払った分だけ自分に返ってくるものです。

今でも、かつての悪代官のように税金を無駄に使う警察官や官僚のニュースをたまに見ます。もちろん、それはごく一部の例であって、私たちの払った税金はみんなの暮らしを豊かにするために使われています。

私たちは、自分の払った税金が何に使われているかを正しく知り、その上でしっかりと税金を納める必要があります。

それは、一方的に納める年貢ではなく、やがては自分に返ってくるものです。

自分の暮らす社会を豊かにするために、税金についてもっと知ることが、これからの未来を担っていく私たちの義務だと思っています。

税金は、私たちの暮らしに密接に関わっていく問題だと思っています。